

Links between
Piano technological evolution
and
Piano works at the XIX century.

イヴ・アンリ教授 レクチャーコンサート

ピアノの技術的進化と 19世紀のピアノ作品との関係

シューベルト、ショパン、シューマン、リスト、ラフマニノフ、ドビュッシー、デュカスの作品より
使用楽器：C.BECHSTEIN D280

Yves Henry
イヴ・アンリ

パリ国立高等音楽院教授

Schubert
Chopin
Schumann
Liszt
Rachmaninov
Debussy
Dukas

2014年9月14日(日)

開場17:30 開演18:00

高崎シューベルトサロン(ピアノプラザ群馬内)



1) 19世紀初頭—「ウィーン式の精巧なピアノ」の黄金時代

「サロン向けの楽器であるピアノ」
フランツ・シューベルト：
即興曲op.90 D.899 第4番 変イ長調 (1827)
「ピアノの詩的かつ多声的なビジョン」
ロベルト・シューマン：
クライスレリアーナ op.16 第1曲、第2曲(1838)

2) 1830年から1850年—

フランスの2大ピアノメーカー・ブレイエル、エラールの出現
「楽器の飛躍と洗練された響き」
フレデリック・ショパン：
ノクターン遺作 嬰ハ短調(1830)
子守唄op.57 変ニ長調(1843/44)
「普遍的な楽器であるピアノ」
フランツ・リスト：
賦呈(シューマン作曲(1840)/リスト編曲(1848))

3) 19世紀後半のピアノ—

スタンウェイ、ペヒシュタイン 現代のコンサートピアノの出現
「絶対技巧を表現するピアノ曲」
フランツ・リスト：
グノーの歌劇「ファウスト」のワルツ(1855/59)
「ショパンのような音色が多様なピアノ曲」
セルゲイ・ラフマニノフ：
前奏曲op.32 第5番 ト長調・Moderato
「リストのような絶対技巧的なピアノ曲」
セルゲイ・ラフマニノフ：前奏曲op.23 第2番 変ロ長調・Maestoso
「オーケストラと音色」
クロード・ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲(ソロピアノ版)
「最高峰—オーケストラをピアノへ」
ポール・デュカス：
交響詩「魔法使いの弟子」(ソロピアノ版 / イヴ・アンリ編曲)

●入場料 2,500円

主催：日本ピアノホールディング株式会社ピアノプラザ群馬

協力：ユーロピアノ株式会社

お申込先・お問合せ

高崎シューベルトサロン

Tel:027-363-1262

〒370-0007群馬県高崎市問屋町西1-3-10

ピアノプラザ群馬内 担当：松原

